岡山・百間川当麻遺跡

1 所在地　岡山県岡山市米田

2 調査期間　一九八三年（昭58）七月～一二月

3 発掘機関　岡山県教育委員会

4 調査担当者　平井　勝・古谷野寿郎

5 遺跡の種類　集落跡

6 遺跡の年代　弥生時代～江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は、岡山市街地を南北に貫流する旭川の東岸に広がる旭東平野を東流する旭川放水路（江戸時代築造の人工河川で通称百間川と呼ぶ）が、操山丘陵東端で流路を大きく南に向ける所に位置する。一九七六年以来、旭川放水路改修計画に伴い発掘調査が実施されている遺跡の一つである。これまでの調査で弥生時代から近世に至る遺構・遺物が発見されているが、奈良時代の建物群と「上三宅」の墨書土器は注目される。木簡が出土した一九八三年度の調査では中世の遺構が主体をなし、大溝・掘立柱建物・井戸跡などが検出された。東西方向の大溝は幅六m、深さ一mを測る。途中に南側から流れてくる溝と合流する場所があり、その底部に凹みが形成されていた。木簡はこの凹みの上部から出土した。大溝内に多量に廃棄された貝殻を含む土層が凹みまで連続しており、それに含まれる遺物から下限は室町時代、上限は鎌倉時代に推定される。

（岡山南部・岡山北部）

8 木簡の釈文・内容

(1)　「□□采女」　123×21×2　011

9 関係文献

岡山県教育委員会『岡山県埋蔵文化財報告14』（一九八四年）

（平井　勝）